

あとがき

ルター研究所の紀要『ルター研究』第一六巻をお届けする（宗教改革五百年を機に五冊の別冊を刊行しましたが、別冊1号を通巻第一一巻として教え、別冊5号を『ルター研究』第十五巻としました）。

昨一二月、日本聖書協会より三二年ぶりに「聖書」の新しい翻訳が出版された（日本聖書協会共同訳）。「聖書」はキリスト教の正典（土台・基準）であり、わけでもルター神学の一大標語は「聖書のみ（*solus scriptura*）」である。というわけで、今年二〇一九年五月に開かれた研究所主催の「牧師のためのルター・セミナー」では、その主題を「ルターと聖書」と定めて諸講義が行われた。本巻には、このセミナーでの各講義を改めて論文化し掲載した（宮本、立山、高井、高村、江口、多田、石居の各論文）。したがって本巻は、「ルターと聖書」特集号ということにもなる。

また、昨年（二〇一八年）の「牧師のためのルター・セミナー」では末竹十大、伊藤節彦、加藤拓末の各先生に講義をしていただいたが、それらの講義も収録した。更に昨二〇一八年一月、大森教会で開かれた研究所の秋の講演会では、小田部進一先生に講演していただいたが、その講演も収録した。講義・講演を論文化していただき、掲載できたことに、改めて感謝し御礼申し上げます。

ルター研究所の目的は、ルターをめぐる教育啓蒙、そして研究活動であるが、この紀要『ルター研究』は一年間の研究の成果の一端である。今後もルター神学研究を積み重ねていきたいと願っている。

二〇一九年一〇月

ルター研究所長 江口 再起